

介護技術委員会での学び

動きだしはご本人(当事者)
から

介護技術委員会
リーダー
石田 大輝

介護技術委員会発足まで・・・

介助中に出来たと思われる傷や変色が
多くあった。(今も多いですが・・・)



職員の思いとして・・・

- ・何とかして介護技術を習得して傷や
変色をなくしたい。

介護技術委員会発足まで・・・

ご家族様の思いとして・・・
(アンケートより)



- ・ 身体が動かなくなる事への不安がある
- ・ 毎日の生活に生きがいを感じない
- ・ 病院ではリハビリをしても良くなならないと言われたがあきらめたくない

介護技術委員会発足まで・・・



- 平成21年作業療法士の大堀先生に来て頂き全体研修を行なう
- 平成22年より介護技術委員会発足



8年間毎月先生に来て頂いての研修

介護技術委員会が大切にしている事

- 「動き出しはご本人(当事者)」から
- 相手の動き出しを「待つ」

委員会発足当初の研修

毎月対象者を決める



先生に関わって頂きアドバイスを頂く



教わった事をひたすら練習する



実践し先生にみて頂く、アドバイスを頂く

- ・ いかに教わった事を上手く実践出来るか(介護方法を学ぶ)
- ・ 先生に頼りっきりの研修スタイル

研修を積み重ねる事で

動き出しを待つという事は・・・



技術ではなく関わりが大切いう事に気付く

現在の研修

今まで先生に教わった事を基にまずは自分たちで実践してみる



自分達で実践している中から対象者を決める



先生に経過をみてもらい、アドバイスを頂く



アドバイスを基に実践、振り返りを行ない、何か月か後に経過をみて頂く

- ・先生に頼りっきりの研修から自分達で行った事をみて頂く研修スタイルへ

現在の研修

研修参加者の変化

- ・ 毎月の研修に年間を通して参加して頂ける様になった
- ・ 研修で見た事、聞いた事を自分の施設に持ち帰り、実践して下さる様になった
- ・ 他施設での実践動画を持ってきて下さり検討を行なえた

地域に向けての研修会

昨年度に発刊した介護技術研修の教科書活用
高校生
お客様のご家族様
地域の方々



基礎介護講座の開催

O・M様



入居当初

- 車いす使用(自走可能)
- 紙おむつ使用
- スタッフが前方から身体を支えて立ち上がる事がやっとな
- 背もたれのない所での座位姿勢は難しく、靴を履こうと足を上げると後ろへ倒れる

できますか？との問いに「出来るよ」との返答
介助をしようとする「自分でできるんだ」と強い口調で話される

関わりとして

- 「**出来る**」といった事は信じて動き出しまつ
- 動き出しがあれば難しそうな所は支える
- 前方からの介助で立ち上がれる為、2名介助でのトイレ誘導を開始する

変化として



- トイレ介助は2名から1名へ、1名から**見守りへ**
- 起き上がり・立ち上がりがご自分で行え、支えなしでの座位姿勢も安定(靴をご自分で履ける様に)
- ベッド⇔車椅子⇔トイレへの移乗が見守り程度で
ご自分で出来る様に
- 移乗時には少し離れた位置から3~5歩程度歩かれる
様に
- **立つのがやっとから掴り歩行、掴り歩行から歩行器
歩行が出来る様に**







動き出しが出てくる事で

- 紙おむつから紙パンツへの変更
- 毎日の出来事を日記に書きとめるようになる
- 好きな行事(書道、歌の会)への積極的な参加
- 動きが多くなる事で**水分増加(1500ml以上)**
- おいしく食べて頂く為に**常食、常菜への変更**
- トイレ誘導での排泄を行う事で**下剤の減少**
- 生活リズムが整う事で服薬していた**精神薬を中止**する



今回の事例を通して

- やはり技術ではなく関わりが大切だったという事を改めて実感できた
- 関われば関わるだけお客様は返してくれる事をO様に学ばせて頂いた
- 今までの研修での学びから出来そうな事をスタッフで考えて取り組み、結果が出る事で自分自身の大きな自信に繋がった

今後の介護技術委員会

- ある程度自分達での実践
- これまで教わった事の中から出来そうな事を考えケアに取り入れていく
- 学んでいる事を自分の言葉に置き換えて話が出来る様にする

ご清聴ありがとうございました

これからもよろしくお願い致します

